

## ●『環境倫理を育む環境教育と授業

ーディープ・エコロジーからのアプローチー』

著者：山本容子

発行：風間書房／2017年1月31日

価格：本体 9,000 円＋税

判型：A5 判、308 頁

ISBN：978-4-7599-2165-6



### 【内容紹介】

本著作は、欧米を中心として広まりつつある環境倫理，特にディープ・エコロジーの視点を導入した環境教育の展開と特質を解明し，その授業づくりを実践的に検討したものです。

ディープ・エコロジーは，1970 年代に出現した環境主義的な環境思想に位置づく代表的な環境倫理思想の一つであり，ノルウェーの哲学者，アルネ・ネス（Arne Naess）によって打ち出された思想です。この思想は，環境問題の解決を人間の内面の意識変革に求めており，自然の中での「自己実現」（self-realization）を通して生命の固有の価値を見つめ直すことを提唱しています。ネスのディープ・エコロジーの根本原理は，特に，アメリカ，カナダ，オーストラリアにおいては，1980 年代から教育への導入が広がり，民間レベルの環境教育プロジェクトのみならず，公教育としての理科教育，生物教育の場での実践もみられ，これに関する先行研究も少なからずなされてきております。

本書では，環境教育の根本的なあり方を探る上で，ディープ・エコロジーの視点を導入した環境教育の理論と実践に関する知見を得ることを試みました。特に，国内外において詳細な研究がなされていない，ディープ・エコロジー思想の中心概念である「自己実現」を導入し，内面の自己変革を図ることを目的とした，高校生物における環境教育のプログラム開発を行いました。そして，その試行により，日本の高校生の反応・変容や実践的課題を探り，ディープ・エコロジーの視点を導入した環境教育を日本で実践する際のあり方を検討する基礎的な知見を得ました。詳細は以下の通りです。

第1章 環境倫理とディープ・エコロジー

第2章 環境倫理の視点を導入したアメリカの生物教育

第3章 欧米を中心としたディープ・エコロジーの特質

第4章 日本の高校生における環境倫理意識－生態学的環境を中心として－

第5章 ディープ・エコロジーの視点を導入した環境教育プログラムの開発

第6章 ディープ・エコロジーの視点を導入した環境教育プログラムの実践とその結果

### 【出版社の書籍紹介ページ】

[https://www.kazamashobo.co.jp/products/detail.php?product\\_id=2173](https://www.kazamashobo.co.jp/products/detail.php?product_id=2173)

### 【著者紹介】

山本容子（筑波大学人間系助教）